

実行委員会委員長

実行委員会委員長 小西 貴久

第13回輝きCUP日本ヤングクラブバレーボール男女選手権大会 in 東近江にご参加頂き、ありがとうございます。

はじめに、本大会の意義と大会の歴史について、ご説明させて頂きたいと思います。

本大会は、平成19年（2007年）4月に大阪枚方女子交流大会の名称で、中学生女子チームのみの大会として産声をあげました。当時は、クラブチームの情報も少なく、出場できる大会も少なかったことから、ヤングの選手たちに少しでも試合をする機会を設けようとして開催されました。第1回大会は、わずか4つのクラブチーム（Bチームを含めて7チーム）での船出でした。第2回大会は、同じ平成19年8月に、大阪府以外のチームも参加して8チームで大会が開催されました。翌年（平成20年）の第3回大会からは、ヤングクラブ女子選手権大会の名称に変更し、参加チームは16チーム（Bチームを含む）を数えるようになりました。そして年1回の開催を継続しています。

平成21年（2009年）の第4回大会は、和歌山県で開催されました。その懇親会の席上で、多くのチームの方々から、この大会を純粋なクラブチームのための全国大会にしていこうとの声があがりました。その熱意に支えられ、翌年（平成22年・2010年）の第5回大会からは、日本ヤングクラブバレーボール選手権大会に名称を変更し、参加チームも22チームという大きな大会に成長しました。

その後、平成23年（2011年）の第6回大会からは、U-12小学生の部を、平成24年（2012年）の第7回大会からは、U-14男子の部を設けました。男子の部を設けた際、本大会の名称を、日本ヤングクラブバレーボール男女選手権大会に変更し、名実ともにヤングクラブのための全国大会として現在に至っています。

なお、大会は、和歌山県での開催以降、第8回大会（平成25年）まで滋賀県長浜市で開催していましたが、第9回大会（平成26年）からは滋賀県東近江市に会場を移し、以後は東近江市の布引体育館をメイン会場として今日に至っています。

大会の規模が拡大するに伴い、大会運営方法にも変化が生じ、平成28年からは実行委員会が主催する形式に変更しています。しかし、実行委員会方式となっても、この大会の主役が、ヤングクラブの関係者の皆さまであることは、何ら変わりありません。これまで以上に、ヤングクラブの関係者の皆さまに、本大会の運営そして今後も大会を継続できるようにご協力をお願いする次第です。

最後になりましたが、本大会に格別のご尽力を頂きます役員の皆さまはもとより、東近江市をはじめとする関係市町村、宿泊施設、ご後援頂く機関・団体、そして、本大会に関係する全てのバレーボール関係者の皆さまに厚くお礼を申し上げごあいさついたします。